「たい肥ナビ！水稲版ver.1」の詳細設定

乾田or湿田

牛ふんたい肥施用量　乾田1t、湿田0.5t

地力診断

している

砂質or粘質

仮比重　砂質1.1g/cm^3　粘質0.9 g/cm^3

リン酸緩衝液抽出窒素量(g/100cm^3)

抽出窒素量(mg/100g)×仮比重

施肥体系

基肥＋穂肥型

標準品質米

x:リン酸緩衝液抽出窒素量(g/100cm^3)
y:基肥窒素量(kg/10a)
x≧4.0, y=2.0
x＜4.0, y=－2.31x+11.27

高品質良食味米

x:リン酸緩衝液抽出窒素量(g/100cm^3)
y:基肥窒素量(kg/10a)
x≧4.0, y=1.0
x＜4.0, y=－2.31×+10.24

全量基肥型

標準品質米

x:リン酸緩衝液抽出窒素量(g/100cm^3)
y:基肥窒素量(kg/10a)
4.0≦x,　　y=4.0
3.8≦x＜4.0, y=－2.31x+13.27
3.4≦x＜3.8, y=(－2.31x+13.27)×0.95
3.0≦x＜3.4, y=(－2.31x+13.27)×0.90
2.5≦x＜3.0, y=(－2.31x+13.27)×0.85

高品質良食味米

設計不可

していない

水田の地力

標準品質米

地力	基肥＋穂肥型	全量基肥施肥
高い	2kg/10a	4kg/10a
中程度	3kg/10a	5kg/10a
低い	5kg/10a	6kg/10a

高品質良食味米

設計不可

基肥窒素量(y)

たい肥の選択　⟷　**たい肥の容積重**

たい肥の施用条件(連用年数)

詳細設定しない

連用年数	累積肥効率
1年目	14%
2年目	21%
3年目	25%
4年目	27%
5年目	28%
6年目以上	30%

z:たい肥由来窒素量
基肥＋穂肥型:z=たい肥の現物中窒素(%)×連用年数累積肥効率(%)／2
全量基肥型:z=たい肥の現物中窒素(%)×連用年数累積肥効率(%)

詳細設定する

施用年	単年肥効率
今年	14%
1年前	7%
2年前	4%
3年前	2%
4年前	1%
5年前	1%

z:たい肥由来窒素量
基肥＋穂肥型:z=Σ(たい肥施用量×現物中窒素(%)×施用年肥効率(%))／2
全量基肥型:z=Σ(たい肥施用量×現物中窒素(%)×施用年肥効率(%))

施肥診断結果

肥料窒素量

a:肥料基肥窒素量(kg/10a)
a≧1, a＝基肥窒素量(y)－たい肥由来窒素量(z)
a＜1, a＝1
表示:「設計不可」「高品質良食味米選択時「地力が高いので，標準品質米で設計して下さい。」
a＜0, a＝1
表示:「地力が高いので,倒伏や品質の低下が著しくが心配なときは，たい肥施用量減らすか,一時的に休止してください。」
肥料穂肥窒素量　基肥＋穂肥型の時　1kg/10a　ただし，たい肥施用量が0tの時は2kg/10a

肥料リン酸量

b:たい肥からのリン酸供給量kg=たい肥施用量kg×たい肥のリン酸含有率%/100
総施肥量　基肥ckg/10a,　たい肥のリン酸肥効率100%
b≧c,　　肥料リン酸量(kg/10a)=0
0＜b＜c,　肥料リン酸量(kg/10a)=c-b
ただし、たい肥のカリ含有率が不明の時は，含有率を0.5%と設定する。

肥料カリ量

d:たい肥からのカリ供給量kg=たい肥施用量kg×たい肥のカリ含有率%/100
総施肥量　ekg/10a、たい肥のカリ肥効率100%
基肥＋穂肥型のとき
基肥e-2kg/10a　穂肥2kg/10a
d≧e,　　基肥肥料カリ量(kg/10a)=0　　基肥肥料カリ量(kg/10a)=0
e-2≦d＜e,　基肥肥料カリ量(kg/10a)=0　　基肥肥料カリ量(kg/10a)=e-d
d＜e-2,　基肥肥料カリ量(kg/10a)=e-2-d　基肥肥料カリ量(kg/10a)=2
全量基肥型のとき
d≧e, 基肥肥料カリ量(kg/10a)=0
d＜e, 基肥肥料カリ量(kg/10a)=e-d
ただし、たい肥のカリ含有率が不明の時は，含有率0.5%と設定する。

肥料成分量

使用する肥料のN成分率を入力する。

リン酸推奨成分率=肥料リン酸量/肥料窒素量*N成分率
カリ推奨成分率=肥料カリ量/肥料窒素量*N成分率

たい肥施用量および肥料の施肥量

肥料施肥量(kg/10a)＝肥料窒素量(kg/10a)×肥料成分量(窒素%)×100

穂肥の施肥法
表示:「穂肥は幼穂長が30～40mmで，葉緑素計(SPAD-502)で28程度で施用。ただし，茎数が500本/m2を超える場合には，幼穂長が70～100mmになるまで穂肥時期を遅らせます。」